



# J.LEAGUE

## J STATS REPORT 2025 Q1

※第9節終了時点（J1:89試合、J2:90試合、J3:86試合）のデータを使用

# 👑 データで選ぶベストイレブン 👑

J STATSを基に選出した第9節時点でのベストイレブンを紹介する。ポジションごとに複数の評価テーマと関連するスタッフを定めてスコアを算出し、評価テーマごとの重要度を掛け合わせたトータルスコアの高い順に選出している。対象選手は、各ポジションで第9節までに5試合以上に先発出場した選手とする。

なお、このスコアはあくまで対象選手内の傑出度を測るためであり、選手の優劣をつけたり、異なるポジションの選手と比較したりするものではない。

GK	CB	SB/WB
<p><b>小島 亨介</b> 柏レイソル</p> <p>トータルスコア <b>515</b></p> <p>セーブ力、攻撃への関与でともに3位。さらにエリア外ボールゲイン数も候補選手中3番目に多い8回を記録し、全ての評価テーマで高水準の数値を記録した。</p>	<p><b>住吉 ジェラニレーション</b> 清水エスパルス</p> <p>トータルスコア <b>555</b></p> <p>ディフェンシブサードでのタックル奪取数でリーグ1位の17回、自陣空中戦勝率では候補選手中2番目に高い86.2%を記録。球際での圧倒的な強さを見せた。</p>	<p><b>ジェイソン キニョーネス</b> 横浜F・マリノス</p> <p>トータルスコア <b>524</b></p> <p>ペナルティーエリア内でのクリア数がリーグ1位の55回、シュートブロック数もリーグ2位タイの9回。失点に繋がりそうな危険なシーンを数多く防いだ。</p>
<p><b>久保 藤次郎</b> 柏レイソル</p> <p>トータルスコア <b>614</b></p> <p>2ゴール1アシストとともに、候補選手中4位の総走行距離95.9km、同3位の総スプリント176回を記録。豊富な運動量でチームに勢いを与えた。</p>	<p><b>安西 幸輝</b> 鹿島アントラーズ</p> <p>トータルスコア <b>539</b></p> <p>バイパス数が候補選手中1位の691、スルーパス受け数も同3位タイの10回と、出し手としても受け手としても攻撃を活性化させた。アシスト数もリーグ3位タイの3を記録。</p>	

※サイドバックとウイングバックは同ポジションとして扱う

MF	MF
<p><b>北野 鳩太</b> セレッソ大阪</p> <p>トータルスコア <b>593</b></p> <p>シュート数27本と4ゴールはいずれも候補選手中1位。総走行距離でもリーグ1位の110.5kmを記録し、縦横無尽の活躍を見せた。</p>	<p><b>ルーカス フエルナンデス</b> セレッソ大阪</p> <p>トータルスコア <b>547</b></p> <p>リーグ1位のラストパス数22本と、高いチャンスマイク能力を発揮。また、被ファウル数でもリーグ1位の24回を数え、相手守備陣の脅威となった。</p>
<p><b>稻垣 祥</b> 名古屋グランパス</p> <p>トータルスコア <b>540</b></p> <p>候補選手中2位タイかつチーム内トップの3ゴール。デュエル勝利数でも候補選手中5位の36回を記録し、攻守両面でチームを支えた。</p>	<p><b>小泉 佳穂</b> 柏レイソル</p> <p>トータルスコア <b>535</b></p> <p>アタッキングサードにおけるオープンプレーのパス数でリーグ1位の201本を記録し、攻撃を牽引した。総走行距離も109.8kmでリーグ2位。</p>

※ウイングの選手はミッドフィルダーに含める

<p><b>CF</b></p> <p><b>レオ セアラ</b> 鹿島アントラーズ</p> <p>トータルスコア <b>622</b></p> <p>シュートのゴール期待値合計3.0に対して、リーグ1位の8ゴールを記録。期待値の差分で+5.0という他を圧倒する決定力の高さを見せつけた。</p>	<p><b>CF</b></p> <p><b>ラファエル エリアス</b> 京都サンガF.C.</p> <p>トータルスコア <b>562</b></p> <p>「ゴール数+アシスト数」でリーグ1位の9(6ゴール、3アシスト)を記録。クリア数でも候補選手中1位の20回を記録し、両ゴール前での貢献度の高さが光った。</p>
--	---

ポジション	評価テーマ	関連スタッツ	評価スコア	上位3選手
GK	セーブ力	被シュートの失点期待値 被シュートによる失点数	78.6 68.5 60.3	村上 昌謙(福岡) スペンド プローダーセン(岡山) 小島 亨介(柏)
			69.8 67.4 64.4	上福元 直人(湘南) 太田 岳志(京都) 谷 晃生(町田)
	クロス対応	クロスキヤッチ数 PA外からの被クロスキヤッチ率	67.0 61.4	藤田 和輝(新潟) 朴 一圭(横浜FM)
			60.9	小島 亨介(柏)
	攻撃への関与	ショートパス成功数 バイパス数 前方バス成功率	64.9 62.1	太田 岳志(京都) 朴 一圭(横浜FM)
			60.0	早川 友基(鹿島)
	カバー範囲	エリア外ゲイン数 走行距離	79.8 69.8 63.7	ジェイソン キニヨーネス(横浜FM) 鈴木 義宣(京都) 田上 大地(岡山)
			65.7 65.4 64.2	植田 直通(鹿島) 鈴木 義宣(京都) 住吉 ジェラニレショーン(清水)
CB	危機回避	PA内クリア数、PA外クリア数 シュートブロック数、クロスブロック数	73.7 62.4 61.0	住吉 ジェラニレショーン(清水) 福森 晃斗(横浜FC) 田上 大地(岡山)
			70.6 68.5 65.1	鈴木 雄斗(湘南) 鈴木 淳之介(湘南) 高木 践(清水)
	空中戦	自陣空中戦勝利数 自陣PA内空中戦勝利数 自陣空中戦勝率	70.4 69.2 69.2	綱島 悠斗(東京V) 高井 幸大(川崎F) 安藤 智哉(福岡)
			69.8 62.9 61.5	安西 幸輝(鹿島) 黒川 圭介(G大阪) 久保 藤次郎(柏)
	ボール奪取	DTタックル奪取数 DTタックル奪取率	69.0 68.0 66.6	半田 隆(G大阪) 須貝 英大(京都) 佐藤 韶(京都)
			69.8 68.3 65.4	畠 大雅(湘南) 藤井 智也(湘南) 小屋松 知哉(柏)
	攻撃への関与	バイパス数 キャリー数	69.0 68.5 65.1	久保 藤次郎(柏) 三浦 風太(川崎F) 小屋松 知哉(柏)
			70.4 69.2 69.2	須貝 英大(京都) 久保 藤次郎(柏) 安藤 智哉(福岡)
SB / WB	得点への関与	ゴール数 アシスト数 シュート数	69.8 62.9 61.5	安西 幸輝(鹿島) 黒川 圭介(G大阪) 久保 藤次郎(柏)
			73.8 68.3 65.4	半田 隆(G大阪) 須貝 英大(京都) 佐藤 韶(京都)
	突破力、クロス	クロス数、クロスによるラストパス数 ドリブル成功数、ドリブルからのシュート数	69.0 68.0 66.6	畠 大雅(湘南) 藤井 智也(湘南) 小屋松 知哉(柏)
			69.8 67.8 66.5	久保 藤次郎(柏) 三浦 風太(川崎F) 小屋松 知哉(柏)
	守備への関与	タックル奪取数 シュートブロック数 クロスブロック数	69.0 68.0 66.6	須貝 英大(京都) 佐藤 韶(京都) 畠 大雅(湘南)
			69.8 67.7 66.5	久保 藤次郎(柏) 三浦 風太(川崎F) 小屋松 知哉(柏)
	運動量	ゴール数 アシスト数 シュート数	69.0 68.0 66.6	須貝 英大(京都) 久保 藤次郎(柏) 藤井 智也(湘南)
			69.8 67.8 66.5	久保 藤次郎(柏) 三浦 風太(川崎F) 小屋松 知哉(柏)
MF	得点への関与	ゴール数 アシスト数 シュート数	90.1 74.2 73.5	北野 風太(C大阪) 西村 拓真(町田) 相馬 勇紀(町田)
			67.8 67.7 66.5	ネタ ラヴィ(G大阪) 見木 友哉(福岡) 斎藤 功佑(東京V)
	守備への関与	ミドルプレス数 ミドルプレスによるコンタクト数 こぼれ球奪取数	85.7 75.8 68.3	ルーカス フェルナンデス(C大阪) 小野瀬 康介(湘南) 扇原 貴宏(神戸)
			67.8 67.7 66.5	ネタ ラヴィ(G大阪) 見木 友哉(福岡) 斎藤 功佑(東京V)
	チャンスメーカー	PA内へのパス成功数 ラストパス数	75.0 71.1 69.4	原 大智(京都) 田中 駿汰(C大阪) ネタ ラヴィ(G大阪)
			75.0 71.1 69.4	原 大智(京都) 田中 駿汰(C大阪) ネタ ラヴィ(G大阪)
	デュエル	デュエル勝利数 デュエル勝率	68.7 64.5 62.6	北野 風太(C大阪) 小泉 佳穂(柏) マテウス サヴィオ(浦和)
			68.7 64.5 62.6	北野 風太(C大阪) 小泉 佳穂(柏) マテウス サヴィオ(浦和)
CF	運動量	走行距離 スプリント回数	76.9 74.1 54.8	レオ セアラ(鹿島) ラファエル エリアス(京都) 長谷川 元希(新潟)
			79.3 66.6 62.9	レオ セアラ(鹿島) 長谷川 元希(新潟) ラファエル エリアス(京都)
	得点への関与	ゴール数 アシスト数 シュート数	64.5 60.9 59.1	オ セフン(町田) ジャーメイン 良(広島) ルカオ(岡山)
			64.5 60.9 59.1	オ セフン(町田) ジャーメイン 良(広島) ルカオ(岡山)
	決定力	ゴール数とゴール期待値の差分	61.4 60.5 57.9	レオ セアラ(鹿島) 大迫 勇也(神戸) 垣田 裕暉(柏)
			63.5 60.2 57.3	ラファエル エリアス(京都) 鈴木 章斗(湘南) イッサム ジェバリ(G大阪)
	攻撃の起点	バイパス受け数 相手陣空中戦勝率	61.4 60.5 57.9	レオ セアラ(鹿島) 大迫 勇也(神戸) 垣田 裕暉(柏)
			63.5 60.2 57.3	ラファエル エリアス(京都) 鈴木 章斗(湘南) イッサム ジェバリ(G大阪)
	脅威となるアクション	裏抜け数 被ファウル数 被ファウルによるPK獲得数	61.4 60.5 57.9	レオ セアラ(鹿島) 大迫 勇也(神戸) 垣田 裕暉(柏)
			63.5 60.2 57.3	ラファエル エリアス(京都) 鈴木 章斗(湘南) イッサム ジェバリ(G大阪)
	守備への関与	プレスバック数 ATタックル数、ATブロック数 クリア数	61.4 60.5 57.9	ラファエル エリアス(京都) 鈴木 章斗(湘南) イッサム ジェバリ(G大阪)
			63.5 60.2 57.3	ラファエル エリアス(京都) 鈴木 章斗(湘南) イッサム ジェバリ(G大阪)

※ DT:ディフェンシブサード、MT:ミドルサード、AT:アタッキングサード ※ PA:ペナルティーエリア



# アクチュアルプレーイングタイム(APT) ACTUAL PLAYING TIME

## ● 各リーグの APT の昨年比

シーズン	J1	J2	J3
2025	54:08 (54.3%)	52:25 (53.3%)	51:24 (52.5%)
2024	52:24 (52.5%)	50:38 (51.6%)	52:28 (53.8%)

※括弧内は「APT ÷ 試合時間」

※2024シーズン、2025シーズンともに第9節終了時点のデータ

▶ アクチュアルプレーイングタイムについて2024シーズンの同時期と比較すると、J 1はプラス1分44秒、J 2はプラス1分47秒と伸びている。一方で、J 3はマイナス1分4秒となった。

チーム別に見ると、全チームの中で最もアクチュアルプレーイングタイムが伸びているのは、柏レイソルでプラス7分18秒。J 1では8チームが昨年同時期と比較して3分以上伸びる結果となった。J 2でも伸びているのはロアッソ熊本でプラス4分44秒、J 3はギラヴァンツ北九州でプラス3分29秒となっている。

## ● 各チームの APT の昨年比

※2024シーズン、2025シーズンともに第9節終了時点のデータ

チーム	2025	2024	昨年比
鹿島	50:24	52:09	-1:44
浦和	55:48	57:46	-1:58
柏	58:59	51:40	7:18
FC東京	54:44	50:42	4:01
東京V	53:09	54:33	-1:23
町田	50:51	49:20	1:31
川崎F	53:50	50:40	3:10
横浜FM	57:57	52:42	5:14
横浜FC	54:14	49:49	4:25
湘南	55:31	49:19	6:12
新潟	60:21	56:35	3:45
清水	54:57	53:22	1:35
名古屋	52:15	52:10	0:04
京都	48:24	46:25	1:59
G大阪	58:37	56:12	2:24
C大阪	56:39	54:05	2:33
神戸	48:44	48:01	0:42
岡山	50:07	47:08	2:58
広島	53:02	48:59	4:02
福岡	53:31	53:12	0:18
札幌	51:09	55:41	-4:31
仙台	53:11	54:03	-0:52
秋田	45:38	41:47	3:50
山形	54:51	54:38	0:13
いわき	46:54	45:53	1:00
水戸	52:09	48:59	3:09
大宮	51:16	51:04	0:12
千葉	51:30	52:19	-0:49
甲府	53:53	51:00	2:53
富山	54:09	54:41	-0:32
磐田	54:43	52:30	2:12
藤枝	49:37	53:43	-4:06
山口	51:12	47:07	4:05
徳島	52:27	53:02	-0:35
愛媛	53:26	50:29	2:56
今治	51:09	51:12	-0:03
鳥栖	53:31	55:11	-1:39
長崎	58:32	58:00	0:32
熊本	58:17	53:32	4:44
大分	50:48	49:15	1:33

## ● 2025シーズン 各リーグの APT 上位5試合

日付	対戦カード	APT
2025/3/29	新潟 vs G大阪	66:45
2025/4/6	柏 vs G大阪	66:30
2025/3/2	浦和 vs 柏	64:26
2025/3/29	FC東京 vs 川崎F	63:58
2025/4/2	新潟 vs 福岡	63:46

日付	対戦カード	APT
2025/4/6	今治 vs 長崎	63:55
2025/3/2	熊本 vs 大宮	62:46
2025/2/23	山口 vs 長崎	62:44
2025/4/13	磐田 vs 熊本	62:23
2025/3/30	熊本 vs 鳥栖	61:50

日付	対戦カード	APT
2025/3/15	相模原 vs 奈良	61:54
2025/3/1	岐阜 vs 北九州	59:54
2025/4/12	福島 vs 北九州	59:42
2025/3/23	奈良 vs 群馬	59:29
2025/2/23	宮崎 vs 福島	59:04



# アウトオブプレータイム OUT OF PLAY TIME

## ● J 1 アウトオブプレータイム内訳の昨年比(単位:分) ※1試合平均

シーズン	統計	セットプレーのリスタート時間						その他
		FK	スローイン	GK	CK	得点→KO	PK	
2025	45.5 (-2.0)	15.5 (-1.5)	11.6 (+0.9)	7.1 (-0.4)	6.2 (-0.6)	2.7 (0)	0.3 (-0.8)	2.1 (+0.5)
2024	47.5	17.0	10.7	7.5	6.8	2.7	1.1	1.6

※セットプレーのリスタート時間は、アウトオブプレーになってから再開するまでの時間。これらのリスタート時間にはVARや交代、怪我人の治療、飲水タイムも含まれる。

※得点→KO:得点後にキックオフで再開されるまでの時間

※2024シーズン、2025シーズンともに第9節終了時点のデータ

## ● J 1 セットプレー件数の昨年比 ※1試合平均

シーズン	FK	スローイン	GK	CK	得点→KO	PK
2025	25.0 (-3.1)	47.8 (+2.0)	15.0 (-2.1)	9.7 (-1.2)	2.2 (-0.2)	0.1 (-0.2)
2024	28.1	45.8	17.1	10.9	2.4	0.3

※2024シーズン、2025シーズンともに第9節終了時点のデータ

▶ 続いて、J 1 のアウトオブプレータイムについて2024シーズンの同時期と比較する。アクチュアルプレーイングタイムが伸びていることに伴い、アウトオブプレータイムは約2分減少している。

内訳を見ると、フリーキックのリスタート時間が約1.5分、ペナルティーキックのリスタート時間が約0.8分短くなっている。1試合平均件数では、フリーキックが昨年比でマイナス3.1本、ペナルティーキックが昨年比でマイナス0.2本となっており、件数の減少がそのままリスタート時間の短縮に繋がっていると考えられる。

一方で、スローインにかける時間は2024シーズンよりも約0.9分伸びている。スローインの1試合平均本数がプラス2.0本と増えていることが影響している。なおロングスローのリスタート時間と件数は、2024シーズンと同水準となっており、ロングスロー以外のスローインにかける時間が増えている結果となった。

## ● J 1 チーム別のセットプレーリスタート時間の昨年比(単位:秒) ※1回あたりの平均時間

チーム	FK			CK			スローイン			GK		
	2025	2024	昨年比	2025	2024	昨年比	2025	2024	昨年比	2025	2024	昨年比
鹿島	42.5	36.8	5.7	41.0	39.0	2.0	15.3	13.2	2.1	33.8	22.2	11.6
浦和	38.5	28.9	9.6	37.6	36.9	0.7	13.6	12.2	1.4	31.5	21.6	10.0
柏	34.0	39.5	-5.5	26.9	38.8	-11.9	12.6	16.6	-3.9	18.8	25.8	-7.0
FC東京	38.0	33.4	4.6	36.0	42.2	-6.3	14.2	13.4	0.8	26.1	22.6	3.5
東京V	37.2	39.1	-1.9	44.2	36.6	7.6	13.9	13.7	0.3	21.5	24.2	-2.7
町田	33.9	39.4	-5.5	34.7	42.7	-7.9	18.4	20.4	-2.0	37.3	29.5	7.8
川崎F	33.8	39.2	-5.3	37.9	31.6	6.3	16.8	13.4	3.4	28.1	28.6	-0.5
横浜FM	29.2	38.1	-9.0	35.7	29.3	6.4	13.4	11.8	1.6	25.4	18.3	7.1
横浜FC	39.7	39.1	0.5	46.5	43.9	2.5	16.1	14.2	1.9	38.8	30.6	8.2
湘南	28.6	34.4	-5.8	35.8	37.8	-2.0	13.6	13.9	-0.3	28.5	29.2	-0.7
新潟	31.3	32.5	-1.2	37.8	40.3	-2.5	14.0	11.3	2.6	25.6	18.0	7.5
清水	37.5	34.1	3.4	35.4	37.6	-2.2	12.0	15.2	-3.3	22.5	23.3	-0.9
名古屋	42.7	35.9	6.8	41.6	37.5	4.1	16.3	15.0	1.3	29.0	30.7	-1.7
京都	38.9	45.3	-6.4	35.2	39.2	-4.0	15.5	15.4	0.0	33.0	32.9	0.1
G大阪	39.0	36.2	2.8	37.4	32.7	4.7	12.6	14.8	-2.2	30.4	30.2	0.2
C大阪	39.0	32.5	6.5	41.4	34.9	6.6	13.4	13.4	0.0	21.2	32.9	-11.6
神戸	39.0	42.2	-3.3	41.9	41.1	0.9	14.5	17.1	-2.6	24.8	30.9	-6.1
岡山	45.1	34.3	10.7	42.3	37.8	4.5	15.2	14.0	1.2	29.7	26.1	3.6
広島	37.0	35.5	1.6	39.0	41.7	-2.7	14.9	11.2	3.7	36.1	32.2	4.0
福岡	40.2	39.0	1.2	44.5	40.1	4.4	14.9	13.8	1.1	27.4	32.2	-4.8

※2024シーズン、2025シーズンともに第9節終了時点のデータ

▶ チーム別のセットプレーリスタート時間の昨年比を見ると、柏レイソルと湘南ベルマーレの2チームがすべてのセットプレーにおいて時間が短くなっている。柏レイソルはコーナーキックとゴールキックで最も短く、スローインも2番目に短い。湘南ベルマーレはフリーキックで最も短くなっている。

すべてのセットプレーでリスタート時間が伸びているのは鹿島アントラーズ、浦和レッズ、横浜FC、ファジアーノ岡山の4チーム。2024シーズンの第9節までとの比較のため、監督交代や、所属カテゴリーによる影響もあると考えられる。



# GOAL ゴール

## ● 各リーグの1試合平均得点数

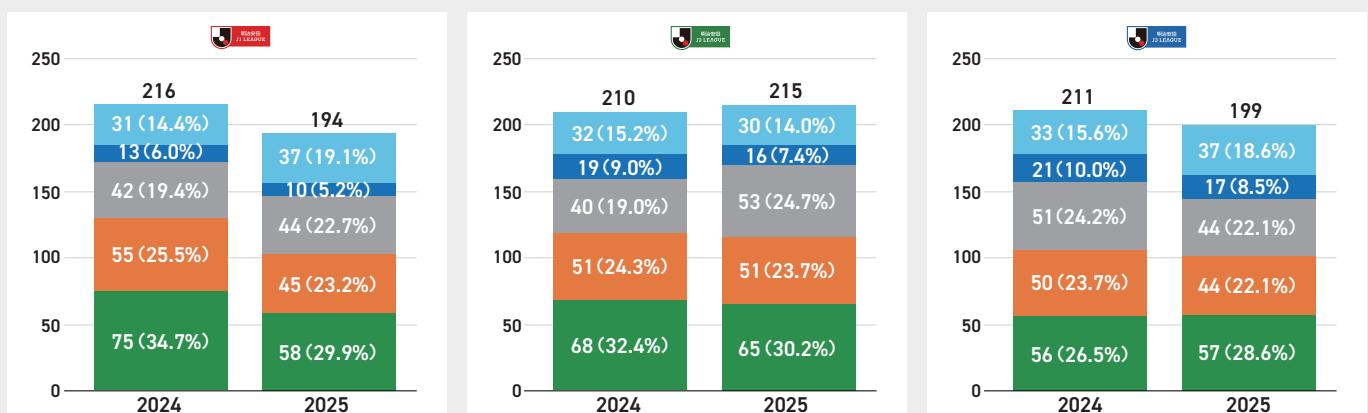
シーズン	J 1	J 2	J 3	イングランド プレミアリーグ	スペイン ラ・リーガ	ドイツ ブンデスリーガ	イタリア セリエ A	フランス リーグ・アン
2025 ※欧州リーグ:2024-2025	2.18	2.39	2.31	2.97	2.62	3.10	2.58	2.97
2024 ※欧州リーグ:2023-2024	2.67	2.49	2.59	3.28	2.64	3.22	2.61	2.70

※Jリーグの2024シーズンは第38節終了時点、2025シーズンは第9節終了時点のデータ

※欧州リーグの2023-24シーズンはシーズン終了時点、2024-25シーズンは2025年4月17日時点でのデータ

- 1試合平均得点数について2024シーズンと比較すると、J 1・J 2・J 3すべてで減少する結果となった。欧州5大リーグと比較しても、Jリーグ全体で得点数が少ない傾向にあることがわかる。2024-25シーズンのプレミアリーグ、ブンデスリーガ、リーグ・アンでは約3点を記録しており、他のリーグよりも得点数の多いリーグとなっている。

## ● 各リーグの得点パターンの昨年比



■セットプレー ■パス ■クロス ■ドリブル ■その他(こぼれ球、オウンゴール、等)

※2024シーズン、2025シーズンともに第9節終了時点のデータ(2024シーズンはすべて90試合、2025シーズンはJ 1:89試合、J 2:90試合、J 3:86試合)

- J 1はセットプレー、パスからの得点数が2024シーズンの同時期と比較してそれぞれ17点、10点減っている。2024シーズンで最も得点源となっていたセットプレーからの得点数の減少が、リーグ全体の得点数減に大きく影響していることがわかる。

J 2はクロスからの得点数がプラス13点と大幅に増加。J 3は4試合少ない状況での比較になるものの、2024シーズンから得点パターンに大きな変化はない。

## ● J 1 アドバンテージ数と得点数

シーズン	アドバンテージ数	アドバンテージ後の得点数
2025	281	8
2024	311	4

※アドバンテージ後の得点:アドバンテージ後に、一度も相手ボールやアウトオブプレーにならずに得点した数。守備側のオウンゴールも含む。

※2024シーズン、2025シーズンともに第9節終了時点のデータ

- アドバンテージ数は2024シーズンと比較して減少しているが、アドバンテージ後の得点数は2倍に増えている。ディフェンシブサードやミドルサードでアドバンテージを取り、そこから得点に繋がったシーンを右側に紹介する。



2025/2/15 岡山 vs 京都



2025/3/2 名古屋 vs 町田



2025/3/2 浦和 vs 柏



2025/4/6 神戸 vs 新潟



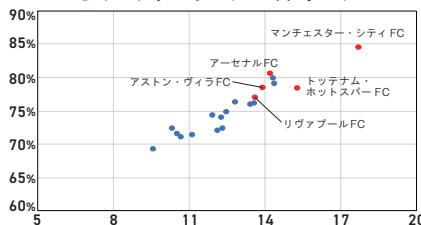
# SPECIAL 世界トップ水準との比較

世界トップ水準との比較を行うため、プレミアリーグ（イングランド）、ラ・リーガ（スペイン）、ブンデスリーガ（ドイツ）、セリエA（イタリア）、リーグ・アン（フランス）とJ1のデータを見していく。欧州リーグとデータの定義をそろえるため、J1のデータも外部ソース（データ提供:SkillCorner）を利用している。

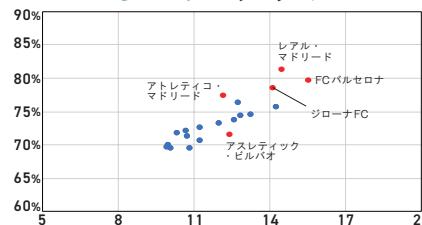
## ● 各リーグのハイプレッシャー受け数とボール保持継続率

※1試合1選手平均 ※●:上位5チーム

### ● イングランド プレミアリーグ



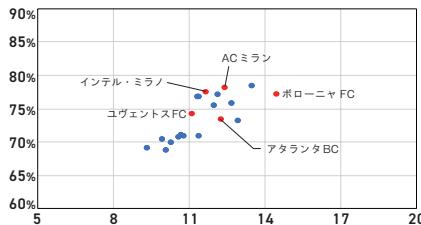
### ● スペイン ラ・リーガ



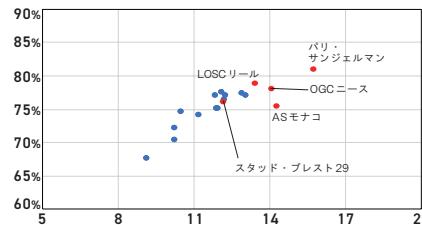
### ● ドイツ ブンデスリーガ



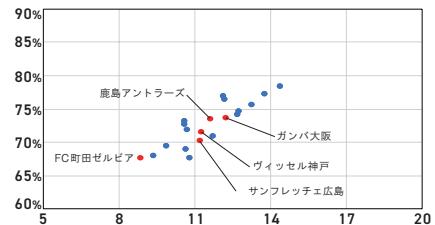
### ● イタリア セリエA



### ● フランス リーグ・アン



### ● 日本 J1リーグ(2024)



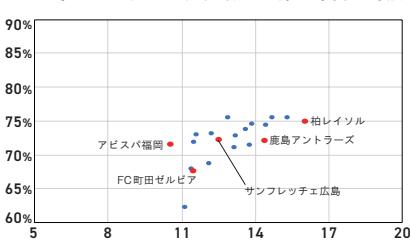
※横軸:ハイプレッシャー受け数　※縦軸:ハイプレッシャー時のボール保持継続率

※J1リーグの2024シーズンは第38節終了時点、2025シーズンは第9節終了時点、欧州リーグは2023-24シーズンのデータ

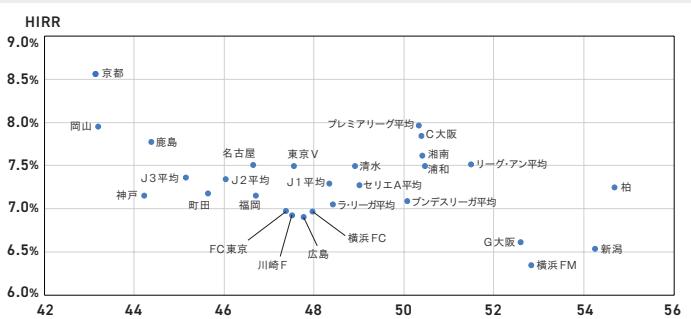
▶ 「[J STATS REPORT 2024](#)」でも紹介したとおり、各リーグのチーム別のハイプレッシャー受け数とボール保持継続率を見ると、セリエAとJ1以外は、優勝チームの「ハイプレッシャーを受けた際のボール保持継続率」が80%を超えており。特にブンデスリーガでは上位5チーム、ラ・リーガでは上位4チームが、ボール保持継続率のトップ5と一致しており、ハイプレッシャーを受けながらもそれを突破して勝利していることがうかがえる。

2024シーズンのJ1では、上位チームが中央あたりに多く位置しており、欧州リーグと異なる傾向となっていた。2025シーズンは、第9節を終えた時点で全体的にやや右寄りに推移していることが見て取れる。なお、ハイプレッシャーを受けた際のボール保持継続率のトップ5は、ガンバ大阪(75.5%)、横浜F・マリノス(75.4%)、川崎フロンターレ(75.4%)、柏レイソル(74.9%)、清水エスパルス(74.4%)となっている。

### ● 日本 J1リーグ(2025) ※第9節終了時点



## ● チーム別の平均HIRRとボールインプレータイム



※HIRR (High Intensity Running Ratio):フィールドプレーヤーの走行距離のうち時速20km以上の割合  
 ※ボールインプレータイム:ボールがインプレーになっている時間(SkillCorner定義)  
 ※J1リーグは第9節終了時点、欧州リーグは2024-25シーズンの2025年4月17日時点でのデータ

▶ HIRRとボールインプレータイムの関係性を見ると、全体的に右肩下がりになっており、HIRRが高いほどボールインプレータイムが短くなる傾向にあることがわかる。HIRRが最も高い京都サンガF.C.のボールインプレータイムが最も短く、ファジアーノ岡山が続いている。欧洲5大リーグと比較すると、J1はボールインプレータイムが最も短いが、HIRRではプレミアリーグ、リーグ・アンに次ぐ高さとなっている。プレミアリーグはHIRR、ボールインプレータイムともに高くなっている。J1ではセレッソ大阪が近い値を記録している。